

令和5年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属幼稚園

1 附属幼稚園の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

(2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

(3) 学級数・収容定員

6級(1学年2学級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

(4) 幼児・児童・生徒数

142人 (男児64人 女児78人)

(5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 6人、養護教諭 1人、非常勤講師 2人
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人
栄養士 1人、調理員 1人

2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活が作り出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実

6 附属幼稚園の令和5年度 重点目標(評価項目)・具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人のよさや可能性に気付く姿を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例検討会や園内研修会を通して、一人一人のよさや可能性に気付く姿を捉える。 大学の教員や幼児教育関係者と連携する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研や事例検討会で幼児自身が自分のよさや可能性をどのように感じ取ったり、気付いたりしているのか、またその姿がどのように変化・変容していくのかを探った。すぐに「気付く」ことは難しくても、対象や他者との対話の中で自分らしさを表現しながら、自分のよさや可能性を感じるところから始まり、それらが積み重なり気付きにつながっていくのだと捉えることができた。 人数制限を行わず対面で発表することができた。多くの参加者から意見をいただき、有意義な保育研究会であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 幼児の姿を一日の中で見るのではなく、数カ月に渡り、遊びや生活のいろいろな姿を見てくようにする。 保育を見ていただいて大勢で語る会ができたことはよかった。次年度も継続していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究会でたくさんの方に参加していただけたことはよかった。参加して一日だけを切り取って研究を理解することは難しいので、担任の先生から経過を説明してもらうことによって、研究への理解が深まるのではないかな。 研究については園だよりや保護者の集まりの時などに説明する機会をもつことで、保護者へも理解を深めることになるのではないかな。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会については継続して行い、本園の研究の成果を発信していく必要がある。 研究だよりが今年度は発行できなかったため、次年度は研究だよりの発行やポスターの掲示など、保護者へも研究の成果を発信していきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 教職員の安全に関する意識を高め、安全・安心な園づくりに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練など安全に関する取り組みについては事前、事後の話し合いを密にする。 警察、消防等関係機関とも連携を図り、教職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練の反省などではできるだけその日のうちに行い、次の日の生活にいきるようにした。また、日々の生活の中でヒヤリハットが起きた時はすぐに共通理解できるようにした。そのことにより教職員の安全に関する意識は高まった。 避難訓練、防犯教室、交通安全教室、防災体験会の折にはできる限り警察や消防の方に来ていただき、指導していただくようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的な教職員の意識は高まったと思われるが、一人一人により、意識の持ち方に差があるように思う。全体で共通理解する機会をさらにもち、園全体で安全に関する意識を高めていく必要がある。 日頃から警察や消防と連携することにより、有事に連携がもちやすくなると思われる。これまでの連携を継続しながら、さらに連携を深めたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人の意識の持ち方は、各々が自分事として考えられるようにしていかなければならないと考える。 保護者アンケートの結果からも、安全を守る意識の高さは保護者に理解されていると考える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果に奢ることなく、これからも安全に対する教職員の意識を高めていきたい。 警察、消防だけでなく区役所など関係機関とのさらなる連携を深めていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が保育参画していける機会を増やし、保護者同士のつながりも深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナが5類になったことで、保育参加やPTAクラブ活動、委員会活動が活発に行われた。また、給食当番はできるだけ異年齢で行えるように工夫した。そのことにより、学年を超えて保護者同士が交流することにつながった。 学年を超えた保護者同士の話し合いができることで、幼稚園の教育方針に対する理解も深まり、保護者が園運営にかかわろうという意識が変わっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> 働く保護者も増えてきたことにより、園行事、PTA活動に参加する保護者の方が固定化しつつある。保護者の方でもそれを課題に感じているので、次年度はPTA活動もなるべく年間行事にで早く知らせ、参加しやすいようにしていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 共働きの家庭が増えていくことにより、PTA活動には参加しにくくなっている。しかし、参加することにより保護者同士のつながりができる。子どもも巻き込んだ内容にするなどの工夫が必要ではないか。参加していただくことによって教育内容を理解していただくことにつながる。 父親の力も大きい。もっと、活動の中に父親の力が発揮できるようにしてはどうか。 	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAの活動日をできるだけ早く知らせるなどの工夫をしたり、「いつでもどこでもどなたでも」の精神を保護者にしっかり伝えていくようにする。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	4 教育実習の指導充実

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの深い教育実習の在り方を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートの記入方法について検討し、実習生がゆとりをもって実習に臨めるようにする。 ・事前に配当クラスを知らせ、実習準備を入念に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートの記入にパソコンを使用してもよいこととした。ICTを活用することで、実習ノート記入の時間が短縮でき、その分、実習生がゆとりをもって実習に臨めるようになった。 ・事前に配当クラスを知らせることにより、実習生自身は事前準備ができたと感じていることがアンケート結果から読み取れる。しかし、教員と感じ方に差があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ノートのパソコン使用については課題もあるが、継続して行うことで改善されることもあると思われる。数年実施を継続して改善点を探ることが必要である。 ・担当クラスが分かっても実際にクラスの子どもの前にしないと、保育を計画しにくいところも大きい。配当クラスを事前に知ることは、実習に臨むにあたっての実習生の安心感にはつながっているようであるが、実際の保育に生きるのところに至っていない。事前のオリエンテーションの折などの伝え方も工夫していきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生は担当の学年を聞いても、各年齢の姿が分かっていないのではないかと。 ・最近の学生は漢字をよく間違える。パソコンを利用することは、実習生のゆとりに繋がれば良いが、基礎学力を身につけにくくなるかも知れない。 ・実習生にはやりがいのある仕事であることを、ぜひ伝えていただきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の幼児の姿については、オリエンテーションの時などにしっかり伝えていき、担当学年の幼児の姿がイメージでき、事前準備を行えるようにしていきたい。

